

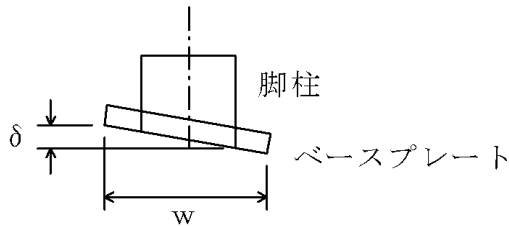
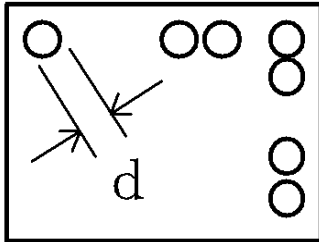
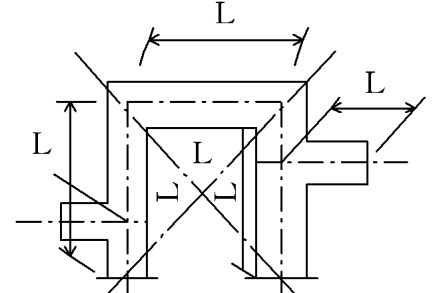
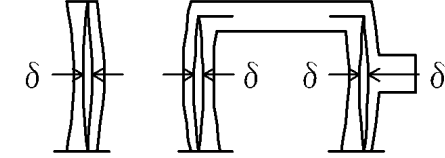
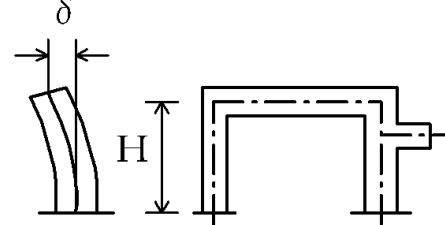
請負工事施工管理基準改正資料

令和 8 年 10 月

名古屋市緑政土木局

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値（mm）	測定基準	測定箇所	摘要
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	9	1	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高▽	-50	100 本に 1 ヶ所測定する。 100 本以下は 2 ヶ所測定する。 1 ヶ所に 4 本測定する。		
						位置・間隔 w	$D/4$ 以内			
						杭径 D	設計値以上			
						深度 L	設計値以上	全本数測定する。 $L = \ell_1 - \ell_2$ ℓ_1 は改良体先端深度 ℓ_2 は改良端天端深度		
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	9	2	固結工 (スラリー攪拌工) 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 第8編固結工(スラリー攪拌工)パチカルドレン工編 」による管理の場合	基準高▽	0 以上	杭芯位置管理表により基準高を確認		
						位置	$D/8$ 以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表により設計杭芯位置と施工した杭芯位置との距離を確認(掘起しによる実測確認は不要)		
						杭径 D	設計値以上	工事毎に 1 回 施工前の攪拌翼の寸法実測により確認(掘起しによる実測確認は不要)		
						改良長 L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結果表により確認(残尺計測による確認は不要)		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値（mm）	測定基準	測定箇所	摘要		
6 道路編	4 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部	橋脚柱とベースプレートの鉛直度 δ （mm）		W／500	各橋脚柱、ベースプレートを測定する。			
							材	ベ ス プ レ ー ト	孔の位置	±2	全数を測定する。		
									孔の径 d	0～5	全数を測定する。		
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L（m）		$\pm 5 \cdots \cdots L \leq 10\text{m}$ $\pm 10 \cdots \cdots 10 < L \leq 20\text{m}$ $\pm (10 + (L - 20) / 10) \cdots \cdots 20\text{m} < L$	両端部及び片持ばり部を測定する。			
							はりのカンバー及び柱の曲り δ （mm）		L／1000	各主構の各格点を測定する。	 側面図 正面図		
							柱の鉛直度 δ （mm）		$10 \cdots \cdots H \leq 10$ $H / 1000 \cdots \cdots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定する。 H：高さ（m）	 側面図 正面図		